

災 害

鴨部川の災害と竹内熊太郎

鴨部川の水害 鴨部川は鴨部・鴨庄の流域一七五㊦の農業用水源であり、志度町全域の上水源ではあるが、また、古来いくたびか氾濫して目に余る災害をほしいままにしてきた。

寅の年の大水 慶応二年（丙寅）の災害はひどかったようであるが記録に恵まれない。鴨部坂子の「砂」の地名は、その災害の所産であるといわれる。

明治十七年の水害 西新開にある水害記念碑の碑文によれば「原文は漢文、直訳して掲げる。」

「明治甲申八月二十五日夜烈風遽（にわか）に起こり、波濤洶湧（きょうゆう）堤防壊決す。勢い奔馬（ほんば

() の如く民屋漂蕩(ひようとう) 人まさに魚餌たらんとす。稜稻(じゆつとう) 甘蔗害を被らざるなし。それ、幸にして命を狂瀾(きようらん) の中に免れし者も、まさに窮餓の域に陥んとす。是に於いて慈善者相謀りて金穀を醜集(きよしゆう) し、相争いて之を濟す。事聖聞に達し金若干を賜い以てその難を救恤す。是実に聖主洪徳の致す所、百姓皆聖恩の深きに感ず。(中略) 嗚呼わが譏の人、熊く心を堤防に尽くし、永(とこしえ) に安穩を保ち、この惨楚(さんそ) の状を忘るる勿(なか) れ。」とある。

記念碑は明治十九年五月の建立で竹内熊太郎の撰文、近藤謙吾書、和泉宗松刻、高さ一五〇センチ、幅五〇センチ。明治三十三年の水害 希有の大水害であつたが記録に恵まれない。

大正元年の洪水 大正元年九月二十一日午後四時ごろから、二十三日の午前五時ごろまで連続どしゃ降りの豪雨で鴨部川にかかる広瀬橋、乙井橋、地藏川橋、鴨庄橋など橋という橋は流され、堤防では本町内で川田、中空、西山鳥田、尻切、川西、そうめんや土堤、小山土堤、などが決壊して濁流は鴨部・鴨庄の田野に渦巻いた。川田の池田亀藏ほか五軒の民家が流され、同部落の山田留吉は板の小切れにつかまって成山まで流されて助かった。避難しそこねた人びとは、水浸しの屋根にしがみついて救いを求めた。鴨部(村長砂川儀七)では津田北山や小田から伝馬船を雇い入れ、鴨庄(村長野崎佐平)では小方や小田から漁舟を駆り出して浸水家屋に避難残りの在否を確かめて漕ぎ回った。浸水度合は、鴨部小学校では床上約一・五尺、鴨庄小学校では一・八尺の高さで壁が洗い流された。鴨部小学校その夜の当直訓導宮本直太郎(当時二五歳)は、一夜中水浸しの校舎の天井裏で一睡もせずにご真影を守りつづけて翌朝伝馬船で救出された。この大水で、死者こそなかったが、家財道具や商品を流失した損害はもとより、田の荒廢、収かく間ぎわの稲の被害はひどかった。川田・中空あたりには、堤防決壊によってできた砂山が昭和のころまで残っていた。

竹内熊太郎 嘉永四年鴨部下庄村小方佐藤孫八二男に生まれ、慶応三年十九歳で竹内又三郎の跡を嗣ぐ。明治五年香川県地券係、同十二年鴨部下庄村戸長(短期辞職)、十八年鴨部中筋村外二か村戸長(短期辞職)、その後学務委員・連合会議員・各種代表委員に選ばれ、町村制実施後は大正十年死亡の日まで三十六年間村会議員・助役・学務委員の任にあり、その間、県会議員・郡会議員をつとめ、村治には隠然たる力をもっていた。

明治十七年の水害にかんがみ、記念碑を建てて治山治水の要を説き、以来鴨部川の改修には積極的で、大正元年の大洪水のあとは山端久吉・松原与三郎らの請負者を使って、鴨部川の砂出し工事を施行した。松端分鴨部川東堤塘に広域な宅地、潤徳園・農業倉庫の敷地などが造成されたのもその浚せつ工事の所産である。

道路改修にも積極的で、もと県道天野峠越を小方峠越に付け替えたことや、もと里道石田―長浜線の改修、また里道小田―鴨庄線(鴨田線)の改修などに尽力した功績は大きい。

翁は竹内家を嗣いでから一そう財を加え、竹内徳米三千石といわれる県下屈指の大地主となり、多額納税者として財界にもときめいた。人に勧めるに勤儉貯蓄をもってし、その徹底した貯蓄と利殖法は、翁のたくましい経済観を物語るものであって、貸金、売掛金、年貢米の取り立てなどは、実に細(こま)かく嚴重で、あるいは冷酷をもって評する人もあるが、いっぽう社会公共のためには決して財の抛出を惜しまなかった。あるいは消防器材を寄付して鴨庄消防組の基礎を築き、あるいは小学校(田八〇オール)、西方寺(一五〇オール)、鴨部神社、寺山庵へも田若干を寄付し、さらに済生会や日本赤十字社へは特別寄付をし、日露戦争には多額の軍事公債を消化して勲八等白色桐葉章を賜わった。また育英にも志あり、力を入れた人に後の満鉄副総裁広瀬直幹(引田の人)がある。

大正十年死期迫るに臨み、鴨部川改修費にと金四万円を寄付することを遺して逝去した。七十一歳。その墓碑銘に、漢学者赤松渡（初代高松市長）は「克研文武 克益公同 一家維勤 一心維忠 千秋万歳 人仰余風」と、翁をたたえる最適の表現をもってした。

人、余風を仰いで、鴨庄小学校庭に頌徳碑、西方寺境内に銅像、鴨庄橋東詰に潤徳園を造営して遺志継承者竹内映子頌徳碑を建立した。村（後志度町）は毎年四月十日を定めて翁の慰霊祭を執行している。「鴨庄の川市」は翁の遺徳顕彰の行事でもある。